

平成6年度（1994年度）

1. シンポジウム

実施月日	テーマ・演題	コーディネータ・講師
平成7年 2月24日 (金) 参加者 43名	『生命誌－生命の歴史をマイクロとマクロから探る－』 － 演題 － ・遺伝子からみた生命の歴史 ・生物体制の階層的発展：系統発生と個体発生 ・脳の進化と心の発生 ・人類の歴史：形態と遺伝子	生命誌研究館 副館長 中村 桂子 大阪大学細胞生体工学センター センター長 松原 謙一 － 講師 － 京都大学理学部 教授 宮田 隆 大阪市立大学理学部 助教授 団 まりな 京都府立医科大学 教授 藤田 哲也 国際日本文化研究センター 教授 尾本 恵市

2. セミナー

実施月日	テーマ・演題	コーディネータ・講師
平成6年 5月27日 (金) 参加者 142名	『肝炎と肝癌の分子生物学』 － 演題 － ・B型肝炎の発症機序 ・B型肝炎ウイルスX遺伝子と肝発癌 ・C型肝炎ウイルス ・C型肝炎の発症機序とインターフェロン治療 ・HGFによる肝再生機構とその臨床応用をめざして ・肝発癌	大阪大学医学部 講師 林 紀夫 － 講師 － 名古屋大学医学部 講師 各務 伸一 東京大学医学部 助手 小池 和彦 国立がんセンター研究所部長 下遠野邦忠 大阪大学医学部 講師 林 紀夫 大阪大学医学部 講師 松本 邦夫 癌研究会癌研究所 部長 樋野 興夫
8月4日(木) 参加者 115名	『AIDS, From Molecular Biology to Treatment』 － 演題 － ・Global Epidemiology of HIV and Needs for Treatment ・HIV Pathogenesis ・Interaction of Viral Gene Products with Cytokines ・Molecular Approaches for HIV Therapy ・Molecular Basis and Clinical Significance of HIV Drug Resistance Antiviral Nucleosides ・Retroviruses in Human Diseases; Special Aspects of Pathogenesis And Some New Approaches to Their Control	大阪大学微生物病研究所 教授 栗村 敬 － 講師 － Mahatma Gandhi Mission Medical School AIDS Research Center, Subhash K. Hira University of Minnesota Medical School University of Minnesota Health Center Ashley T. Haase Osaka University Medical School Tadamitsu Kishimoto University of California, San Diego Flossie Wong-Staal McGill University McGill AIDS Centre Mark Wainberg National Cancer Institute National Institutes of Health Robert C. Gallo
11月18日 (金) 参加者 63名	ブレインサイエンスシリーズ 第7回 『記憶・痴呆』 － 演題 － ・海馬神経回路と記憶形成 ・海馬に存在するプロテアーゼ ・脳血管性痴呆の臨床と病理 ・痴呆症と遺伝的要因 ・アルツハイマー病 ー多因子遺伝からのアプローチ	大阪大学医学部 教授 遠山 正彌 奈良先端科学技術大学院大学教授 塩坂 貞夫 － 講師 － 福井医科大学 助手 玉巻 伸章 奈良先端科学技術大学院大学教授 塩坂 貞夫 国立循環器病センター研究所 部長 緒方 絢 大阪大学医学部 講師 三木 哲郎 新潟大学脳研究所 教授 辻 省次

平成7年 3月14日 (火) 参加者 63名	幹細胞シリーズ 第4回 『ES細胞とマウス突然変異体』 — 演題 — ・ これからのジーンターゲットング ・ ジーンターゲットング法によるマウス Hox遺伝子群の機能解析 ・ 遺伝子ターゲットング法を用いたマウス δEF1の機能解析 ・ 遺伝子ターゲットング法により樹立された 色素性乾皮症マウス ・ ノックアウトマウスを用いた細胞死抑制 遺伝子bc12の解析 ・ ジーンターゲットングによる免疫機構の解析	大阪大学細胞生体工学センター 教授 近藤 寿人 — 講師 — 大阪大学細胞生体工学センター 教授 近藤 寿人 京都大学理学部 助教授 千坂 修 大阪大学細胞生体工学センター 助教授 東雄 二郎 大阪大学細胞生体工学センター 教授 田中亀代次 大阪大学医学部 教授 辻本 賀英 大阪府立母子保健総合医療センター研究所 部長 吉田 進昭
------------------------------------	---	--

3. 千里ライフサイエンス技術講習会

開催日	テーマ	後援企業&コーディネータ
第4回 平成6年 11月15日 (10~17) 参加者 18名	『免疫学・分子生物学および生理学のためのペプチド合成とその検定法』 — 講演 — ・ 高効率ペプチド合成の基礎と臨床 試薬・レンジ・リンカー・アッセムブリー・ クリーンベイジについて 生命科学の研究に必要なペプチドの検定法 実習 ・ PSSM-8を用いたペプチド合成(合成計画、操 作法など) ・ クリーンベイジのデモンストレーション ・ 検定に用いる機種のデモンストレーション	大阪大学細胞生体工学 センター長 松原 謙一 — 後援企業 — (株)島津製作所 — 講師 — (株)島津製作所専門部長・ 東京農工大学 客員教授 軒原 清史
第5回 平成7年 2月14日 (13~17) 2月15日 (10~17) 2月16日 (10~12) 参加者 26名	『DNAシーケンサーを用いた遺伝子解析』 — 講演 — ・ Gnen Scan 672 概要説明 ・ Gnen Scan 672によるマイクロサテライト 分析(実習) ・ Gnen Scan 672による結果判断(実習) ・ Geno Typer概要説明 ・ Geno Typerによるマイクロサテライト分析結果の 編集 ・ (実習)Q&A	大阪大学細胞生体工学 センター長 松原 謙一 — 後援企業 — (株)パーキンエルマージャパン — 講師 — (株)パーキンエルマージャパン マーケティング課主任 福島 敬

4. 新適塾

(1) 千里神経懇話会

開催日	テーマ・演題	世話人・講師
-----	--------	--------

<p>第1回 平成6年 4月25日 (PM4:00~)</p> <p>参加者 61名</p>	<p>『神経系の形態形成、分化の分子メカニズム』 転写調節因子、受容体、細胞接着因子から のアプローチ</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション ・LIM-homeodomain蛋白ファミリーの遺伝子 クローニングと胎生期神経系における特異 的発現 ・bcl-2 遺伝子の神経発生、臭神経系における 発現 ・eph サブファミリーに属するレセプターチ ロシンキナーゼ遺伝子のクローニング ・leucine-rich-repeat 構造を持つ新規蛋白質 のクローニングと神経発生過程における発現 	<p>大阪大学医学部 教授 遠山 正彌 大阪市立大学医学部 教授 高木 宏 和歌山県立医科大学 教授 仙波恵美子 奈良先端科学技術大学院大学 教授 塩坂 貞夫</p> <p>— 講師 —</p> <p>大阪大学医学部第2解剖 和中 明生 大阪大学医学部第2解剖 松本 和政、張 建華</p> <p>大阪大学医学部第1解剖 古山 達雄 大阪大学医学部共同研 田中 達哉 大阪大学医学部第2解剖 石井 伸子</p> <p>大阪大学医学部第2解剖 森 徹自</p> <p>大阪大学医学部第2解剖 田口 明彦 大阪大学医学部分子脳機構 谷口 弘樹</p>
<p>第2回 6月20日 (PM5:00~)</p> <p>参加者 61名</p>	<p>『トランスポーター、レセプター』 — 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション ・網膜に発現するグルタミン酸トランスポー ターのcDNAの単離、機能発現、分布、眼動 脈—過性虚血後の遺伝子発現変化 ・異所性に発現する臭覚受容体遺伝子ファミ リーの解析 ・パーキンソン病モデル動物に移植された胎 仔ドーパミンニューロンにおけるドーパミ ントランスポーターの遺伝子発現 ・フルクトース吸収障害患者におけるフルク トーストランスポーターの遺伝子解析 	<p>大阪大学医学部 教授 遠山 正彌</p> <p>— 講師 —</p> <p>大阪大学医学部第2解剖 島田 昌一 大阪大学医学部第2解剖 井上 浄 大阪大学医学部眼科 大鳥 安正 サントリー(株)生物有機科学 研究所 堺谷 正弘</p> <p>奈良県立医大耳鼻科 南 有紀 大阪大学医学部第2解剖 円谷 徹、井上 浄</p> <p>大阪大学医学部眼科 大鳥 安正、森村 浩之 大阪大学医学部トレーサー 情報解析 藤田 昌宏</p> <p>大阪大学医学部小児科 虫明聡太郎、恵谷 ゆり</p>
<p>第3回 9月20日 (PM4:00~)</p> <p>参加者 63名</p>	<p>『損傷神経の再生に向けて』 — 演題 —</p> <p>1. イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GAP-43発現と神経再生 ・神経損傷後の細胞内シグナリング ・gp-130 (脳内局在と神経再生) ・新たな神経再生関連分子を求めて ・発生工学的手法の導入による神経再生研究 <p>2. 神経活性物質受容体の発現調節の意義を 求めて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション ・ニューロテンシン受容体のクローニングと 転写調整 ・ニューロテンシンアンタゴニストによる 受容体発現調節 ・オキシトシン受容体遺伝子の発生 ・形態形成に関与するNotch遺伝子の発現 ・新たなZn-Finger蛋白のクローニングとその 脳内局在・発生 ・視床下部下垂体後葉系による炎症防御機構の 可能性 	<p>大阪大学医学部 教授 遠山 正彌</p> <p>— 講師 —</p> <p>木山 博資 姚 桂欄 桐生寿美子、北原 紘、守田 直規 大野 浩司 渡邊 大、姚 桂欄 桐生寿美子、北原 紘 加藤 英政、姚 桂欄</p> <p>木山 博資 吉村 亮一、前野 浩巳、藤田 繁俊 土岐 栄喜 守田 直規</p> <p>吉村 亮一 大阪大学医学部脳外科・遺伝子学教室 樋口 真秀 濤川 一彦</p> <p>大阪大学医学部産婦人科 坂本 能基、松本 敬子</p>

<p>第4回 12月20日 (PM1:00~) 参加者 62名</p>	<p>『免疫電顕法において共焦点レーザー顕微鏡を用いた応用例他』 (大阪大学医学部バイオメディカル教育研究センター 神経解剖グループ) — 演題 — 経活性物質受容体の発現調整の意義を求めて ・イントロダクション ・ニューロテンシン受容体遺伝子のクローニングと転写因子 ・オキシトシン受容体遺伝子の発生 (大阪市立大学医学部第一解剖グループ) ・はじめに ・免疫電顕法において共焦点型レーザー顕微鏡を用いた応用例 ・ラット海馬ニューロン内におけるMn-SOD, NO-synthase, CalbindinおよびPravalbuminの共存の有無について ・虚血脳海馬CA-1でのIL-βの局在：免疫電子顕微鏡学的検索 ・実験概略説明 ・TBP-1遺伝子の脳内発現について ・大脳皮質優勢発現を示す新規遺伝子のクローニングとその発現解析 ・経過報告</p>	<p>大阪大学医学部 教授 遠山 正彌 — 講師 — 木山 博資 吉村 亮一、前野 浩巳、藤田 繁俊、土岐 栄喜、吉村 亮一 高木 宏 大町 哲史 松井 徳造 前田 光代 佐藤 真 中村 敬弘 永野 隆 森 泰丈、大西 秀岳、米田 託成、前田 光代、佐藤 真</p>
<p>第5回 平成7年 2月23日 (PM5:00~) 参加者 73名</p>	<p>『脳の視覚野の可塑性セリンプロテアーゼと記憶 他』 — 演題 — はじめに 1. 教育講演—脳の視覚野の可塑性— 2. cDNA cloning of a novel serine protease family and their possible function in the brain(in English) 3. セリンプロテアーゼと記憶 4. 奈良先端科学技術大学院大学修士過程大学院生に対する質疑応答</p>	<p>大阪大学医学部第二解剖 教授 遠山 正彌 — 講師 — 遠山 正彌 大阪大学医学部バイオメディカル教育研究センター 梶 義郎 奈良先端科学技術大学院大学 陳 祖林 奈良先端科学技術大学院大学 百田 芳春</p>

5. 千里ライサイエンス市民公開講座「成人病シリーズ」

コーディネータ：国立循環器病センター名誉総長 尾前 照雄氏

開催日	テーマ・演題	座長・講師
<p>第10回 平成6年 5月28日 参加者 196名</p>	<p>『肝炎と肝がん』 — 演題 — ・開催にあたって ・ウイルス性肝炎 ・肝硬変と肝がん ・アルコールと肝障害</p>	<p>尾前 照雄、岡田 善雄 大阪大学医学部 講師 林 紀夫 — 講師 — 岡田 善雄 林 紀夫 金沢大学医学部 教授 小林 健一 金沢医科大学 教授 高田 昭</p>
<p>第11回 11月19日 参加者 260名</p>	<p>『ボケの見分け方』 — 演題 — ・開催にあたって ・治るボケ・治らないボケ ・脳卒中とボケ ・健やかに老いる —心の健康—</p>	<p>尾前 照雄、遠山 正彌、西村 恒彦 — 講師 — 岡田 善雄 愛知医科大学 学長 祖父江逸郎 国立循環器病センター研究所 部長 緒方 絢 大阪府立大学 教授 大國美智子</p>

第12回 平成7年 3月11日 参加者 245名	『ストレスと健康』 — 演題 — ・開催にあたって ・脳からみたストレス ・ストレスとリラクゼーション — 首肩心の凝りのほぐし方 — ・笑い与健康	尾前 照雄、岡田 善雄 — 講師 — 岡田 善雄 久留米大学医学部薬理学教室 教授 田中 正敏 エリザベト音楽大学心理学研究室 教授 松原 秀樹 医療法人定生会谷口病院 副院長 昇 幹夫
--------------------------------------	--	---

6. 千里ライフサイエンスフォーラム

開催日	講演・テーマ	講師名(所属)
21回 平成6年 4月22日 参加者41名	『生物進化と分子進化』	大阪大学理学 部長 松原 央
22回 5月20日 参加者48名	『サルの社会からヒトの社会をみる』	大阪大学人間科学部 教授 糸魚川直祐
23回 6月24日 参加者43名	『関西国際空港のインパクト』 — 関西はどう変わるか —	大阪大学工学部 教授 鈴木 胖
24回 7月22日 参加者38名	『創薬研究とセレンディピティ』	武田薬品工業(株) 常務取締役 藤野 政彦
25回 8月26日 参加者52名	『ビール四方山』	キリンビール(株) 京都工場長 中谷 富治
26回 9月22日 参加者39名	『集団の転機』 [KRFとのジョイントフォーラム]	大阪大学 総長 金森順二郎
27回 10月21日 参加者35名	『科学に欠けるもの』	大阪大学 名誉教授 泉 美治
28回 11月25日 参加者36名	『なぜ発生は進化を繰り返すのか?』	City of Hope バックマン研究所 終身特別研究員 大野 乾
29回 12月13日 参加者40名	『良い時を提供する産業の開発』 —モノから情報・サービス・文化の マーケティングへ—	神戸大学経営学部 教授 倉光 弘己
30回 平成7年 1月20日 参加者15名	『大阪湾の環境と漁業』	大阪府立水産試験場 主任研究員 安部 恒之
31回 2月24日 参加者34名	『化学製品誤飲事故は防げるか?』 電話相談からみた事故原因を通じて	(財)日本中毒情報センター 常務理事 新谷 茂
32回 3月24日 参加者31名	『特許が歴史を変えるとき』	藤沢薬品工業(株) 相談役 青木 高